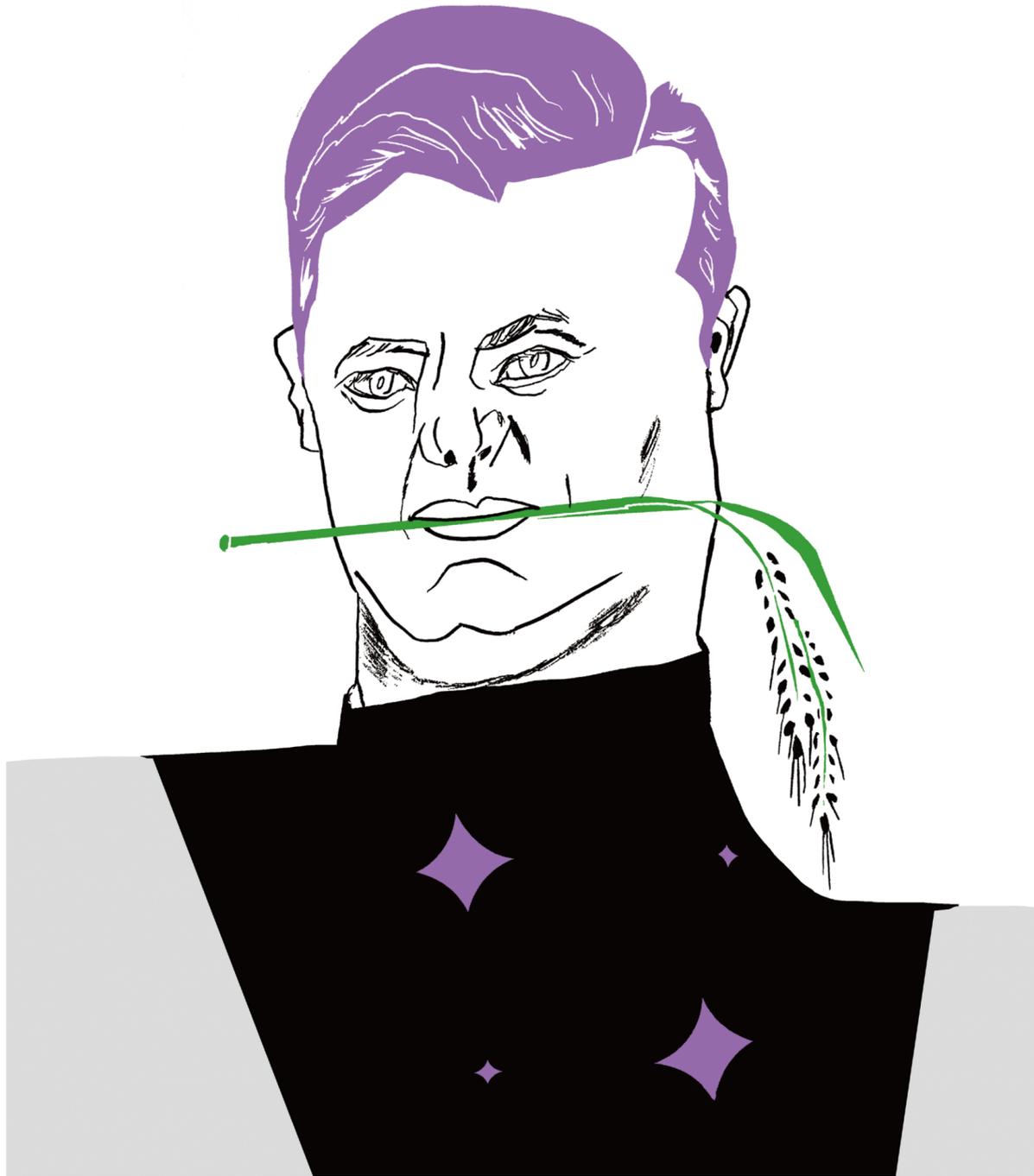


あした³が上々



ashitagajojo.jp @ f t

1号

- 第1話 歴史の道？ 食べ物の道？
- 第2話 市立図書館に行こう
- 第3話 人と植物の関係性を描く
- 第4話 小さな福のおすそ分け
- 第5話 古代米と旅する

Have a good day tomorrow. Tagajo

第5話 古代米と旅する



第5話はWebsite「あした³が上々」でドキュメンタリー映像公開中です。



多賀城市

あした³が上々

多賀城の明日を輝かせる、未来へつなぐ20個のタネ



「あした³が上々」は市制施行50周年を記念し、20人のストーリーを通して多賀城市の明日を創造する4号限定の季刊紙です
多賀城市市長公室市民文化創造担当 985-8531 宮城県多賀城市中央2-1-1 022-368-1141(内線262) sozo@city.tagajo.miyagi.jp



第1話 歴史の道？ 食べ物の道？

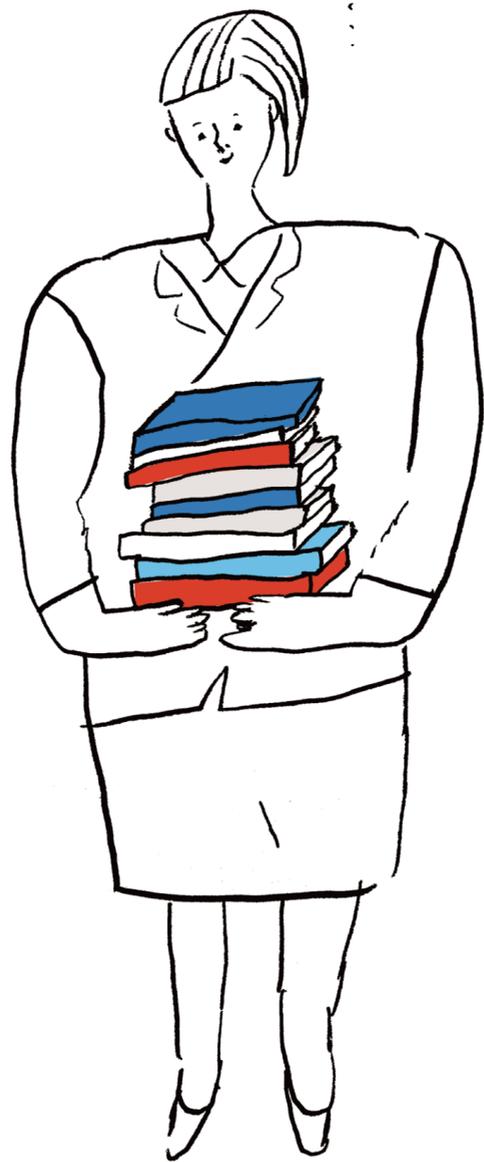
松橋七海 / 東北学院大学文学部歴史学科3年。
第18回みやぎふるさとCM大賞「今私たちに出来ること」に出演し審査員奨励賞受賞。
趣味は食べ歩きで、新しいお店の開拓にも余念がない。好きな多賀城の食べ物は「古代米ゆべし」。



歴史の魅力を伝えていきたいので、大学卒業後はできれば歴史関係の仕事をしてみたいのですが、例えば歴史博物館で働くとなると、学芸員って一人前になるまでが大変らしいんですよね…。大学卒業して院に進んでからも10年くらいは安定した生活は送れないかもしれないなくて、独り立ちするまでに時間がかかるそうなんです。だから、なかなか現実に考えて何を優先すべきか今は迷っていて。もともと自分が好きなことを仕事にしたいと思っていたので、ごはん、とか…、お酒も好きなので…食関係の仕事にも惹かれています。新しいお店の開拓や、自分が美味しいと思つたものを人に勧めることが多いので、そういったPRの仕事も楽しそうだし、新しいものを生み出していく仕事も面白そうですね。いずれにしても多賀城で働いたら最高だと思います。

歴史に興味を持ち始めたのは、幼い頃から家の近くにある東北歴史博物館に遊びに行っていて、それがきっかけですね。中学の時には歴史を勉強していくというのは決めていて、大学も迷わず歴史学科に入りました。よく「歴史ってそんなに面白いの？」と聞かれるんですけど、知らなくても困らないものかもしれないけど、知ってた方が人生がより楽しくなるのが歴史の魅力だと思います。道端にある石碑が何のために建てられたんだろうとか、私にとってはわくわくします。多賀城にはちよっと歩くとそういった歴史を感じられるスポットがたくさんあって、特に好きな遺跡が多賀城政庁跡。何があるわけでもないのですが、高いところにあつて、風が通つて気持ちいいんです。食べ物を持ってきて食べたり、登ってきた達成感も味わえてリフレッシュできるんですね。





一冊の本との出会いが人生にもたらすものは、多賀城市立図書館副館長の鈴木実紗さんは、進路を決める際「司書以外になりたい職業はたくさんあったが、それらが全て読んだ本に影響されていることに気付いた」そうだ。だったら色々な職業を知ることができる司書の仕事を通して夢を見続けることも面白いかもしれない、と司書の道へ進んだ。

鈴木実紗 / 2015年にカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社に入社後、海老名市立中央図書館での司書経験を経て現多賀城市立図書館副館長。最初に読破した長編小説はドストエフスキーのカラマゾフの兄弟。

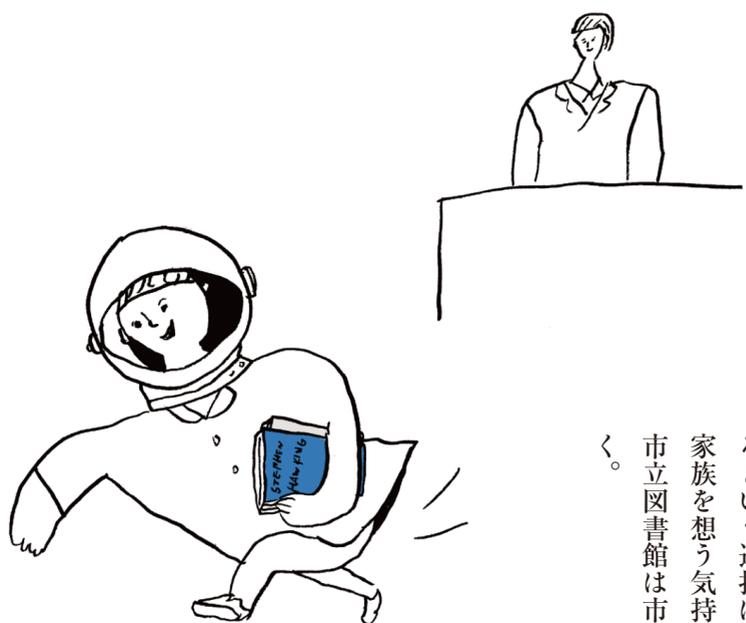




多賀城に、これまでのイメージを覆す次世代の図書館が完成したのは2016年3月。全国に書店や、レンタル事業等を展開しているカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）へ、多賀城市から「代官山にある葛屋書店をこのまちに！」と相談があったことをきっかけに3年の構想期間を経て2016年3月21日にお披露目となった。

「多くの市民が集い交流でき、誇りとなる場所」という菊地前市長の想いをベースに市民アンケート等を実施し、求められている図書館を形にしていく過程で、誰もが行きたくなる環境や居心地の良い空間のある「家」のような場所というコンセプトが立ち上がった。1階はリビング、2階は書斎、3階は勉強部屋と、階ごとにテーマが設けられている。リビングをイメージした1階にはカフェが併設され、くつろぎながら読書を楽しむことができる。

文化の発信拠点として、本という入り口にとどまらず、ヨガや英語の多読サロン、コンサートなどのイベントを企画することで来館者への間口を広げ、今まで足が遠のいていた層へのアプローチも積極的だ。しかし本の魅力を伝える本来の役割もしっかりと担っている。



「その本を提案したことによって、読んだ方がどうなっていくかまで想像して欲しい」という鈴木副館長の想いは職員全員が共有している。ご利用者様の探している本を見つけるのはあたりまえ。そこから一歩踏み込んだ提案をするのがこの図書館の特徴でもある。「ご提案させていただいた本との出会いから、新しいことに挑戦するきっかけになれば嬉しいです」。もちろん、その先どうなったかを知る機会はないかもしれない。けれど、重い本をもう一冊持ち帰るといふ選択は、提案を受け入れてくれた証だ。家族を想う気持ちのように、これからも多賀城市立図書館は市民のあしたに寄り添い続けていく。

第3話 人と植物の関係性を描く



浅野友理子／アーティスト。2015年東北芸術工科大学大学院工学研究科修士課程修了。出会った人々から聞いた土地に受け継がれる植物のエピソードを記録するように描いている。2020年VOCA展にて大原美術館賞受賞。



——2018年にUターンされて、久々の地元は浅野さんの目にどう映りましたか。

子供の頃とは違った植物が目に入ってきました。知っている道なんだけど、今まで気付かなかった植物が生えていたりして。今年は特にコロナ禍でまちの外に出なかつたこともあり、身近な植物がより面白く感じるようになりました。子供の頃、ちよつと森になっているところとか、多賀城廃寺跡とか、東北歴史博物館裏のあたりとかで遊んでいて、そんな場所に意外とあけびの蔓があつたり、野生のせりが生えていたり。山形で覚えた山の植物にも出会えました。多賀城は都市化が進んでいますが、ちゃんと自然も残っている。

——植物を描くようになったきっかけは何だったのでしょうか。

もともと木の実とか植物の形とかがすごく好きで絵を描いていたのですが、山形の美大に進学し、山奥の湯治場に滞在し土地のことを訪ね歩いて描いた経験が大きかったです。植物が人の手によって調理されて保存食になっていくことに魅力を感じて。そこから、受け継がれてきた知恵や、植物を取り巻く色々なものに目を向けてみたら面白いなと思うようになりました。



—— そういった技や知恵を残したいという気持ちが描く原動力になっているのですね。

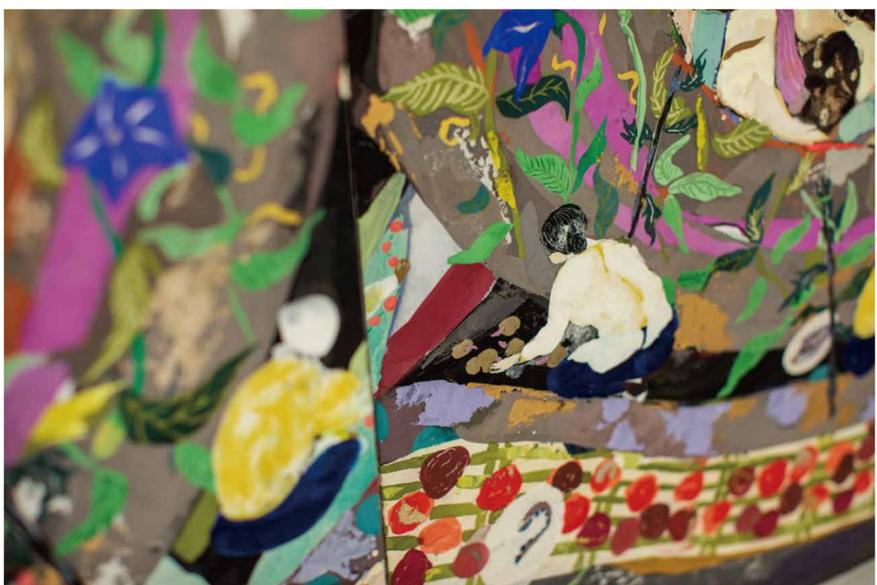
それもありますが、一番は出会った人たちが描きたいと思える刺激をくれるんですよね。自分が刺激を受けたくて動き回っているところが大きいです。

—— 多賀城で植物と人という観点からは何か見えてきましたか。

東北歴史博物館裏の今野家住宅には無花果とかナツメ等の庭木がたくさん植えられているのですが、山桑、キイチゴ、ニワトコ、ヤマモモなどは博物館の方が持ってきて植えたものだそうです。毎年実をつける頃、いつのまにか近所の方が収穫していたりすると聞きました。

—— みんなが大切にしている場所なんですね。

ささんの森も子供の頃の遊び場だったのですが、そこは多賀城で結婚した夫婦が植樹してできた森だったりとか。あやめ園も遠足で行くような身近な場所ですが、毎年手入れをしているボランティアさんがいるんです。戻ってきたからこそ見えてくるものがありました。





た
旅先で食べた
菓の実にあこがれて
庭に植えては
祖母の名前を呼んでみる



い
意外なところに
カタクリの群生
花をみつけて
旅を思い出す



ぬ
ぬっと
木陰に現れる
魅惑的なマムシグサ
根っこは猛毒
気をつけて



ふ
夫婦で
植えた
木々生い茂る
さざんかの森

や
やわらかい
新芽を摘んで
餅の餅屋
よもぎもち



さ
在来イチジク
庭に植えたら
急成長
大きな根っこにご用心



ん
根が
タケノ
した



う
うっとりする
香りつられて
近寄ると
ニワトコの花



あ
甘い香りの
青梅もいで
氷砂糖とブランデーで
梅酒作り



を
オトギリソウを



——そういった視点から見ると、まちの風景が違って見えそうです。

今年亡くなったおばあちゃんの思い出や、家族との記憶と結びつくこともあります。小さい時におばあちゃんによもぎを取りに行つて草餅を作つたり、外から植物を取つてきて庭に植えていたことか。今思つとその植物はカキドオシだったことに気付いたり。庭では季節ごとに綺麗な花が咲き始めて、おばあちゃんが近くの島から持ってきて植えた花もあつて。小さな庭の中にも人が関わって息づいている植物があるんです。

——そんな中で多賀城の植物カルタが生まれたんですね。通勤路で見つけたマムシグサという植物が、花の形がちょっと変わった植物で、それを描いてみたくてドローイングをしていたのですが、そこからおばあちゃんとの思い出の植物も面白くなってきて。展示もしつつ何か出来たらいいなと思つていた時に、コロナ禍でアーティストに機会を与えてくれる多賀城市の事業を見つけて参加することになり、カルタだったら植物との思い出などの言葉を添えられるし、みんなで楽しく作れそうだなと思つてウエブワークショップを企画しました。私が描いたカルタをプレゼントして、参加者の皆さんにも画面越しに身近な植物を描いてもらいながら、そのエピソードも話してもらつて。ラジオみたいで楽しかった。私も気付かなかつた植物やお話を聞くことができ、とても良い機会になりました。



常連…よっ！ 今日もいい匂いに釣られて来ちゃったよ。

店主…いらっしやいませ。お客さんが好きな豆焼いといたよ。

常連…この店に通い始めて15年になるけど、マスターに変わる前から来てるからかなり古株だよな。ところで、そもそも何でお店を引き継ぐことになったの？

第4話 小さな福のおすすそ分け



店主…前の店主が体壊しちゃって店閉めることになって。でも、お客さんみたいな人が来るから、「はい、おしまい！」って言えなかったんだよ。ここだけの話、当時保険会社で仕事してたから副業できなくて、お袋に店立たせて裏方で焙煎してさ。大変だったよ。

常連…味も変わったよね。前の人の好みだったけど、やっぱりマスターの豆が俺には合ってるな。

店主…仕事もしていたから両立できるように、やり方変えたんだ。金沢大学で珈琲の研究をしている教授を紹介されて、そこで使ってる遠赤外線焙煎機を導入して。東北ではウチだけ。遠赤外線だから豆の膨らみが大いのが特徴で、芯の方から温まって通常よりも低い温度で煎るのでまろやかに仕上がる。

常連…どこの珈琲とも違う味わいだなくと感じてたけど、そんなすごい機械使ってたんだ！

店主…どこかで修行したわけじゃないからね。腕はない。だから焙煎機頼りだし、豆も色んなルートから良いものを仕入れてるよ。

常連…同じの買っても、いつもと違うなりって時があるけど（笑）。それもまめ福の味だよな。そういや、まめ福っていい名前だよな。

店主…実は前の屋号だった「まめや」と「福室電器」を合わせたものなんだよ。当時看板を全部直す費用もなかったのもあってね、「や」を「福」に変えただけ（笑）。この店舗は昔親父が電気屋をやっていた時に使っていた場所で、そういう思いも残したいなって。お袋も電気屋の時に鍛えた接客スキルが生きて生き生きしてるでしょ（笑）。

常連..おばあちゃんとの会話もここに来る楽しみでもあるなあ。

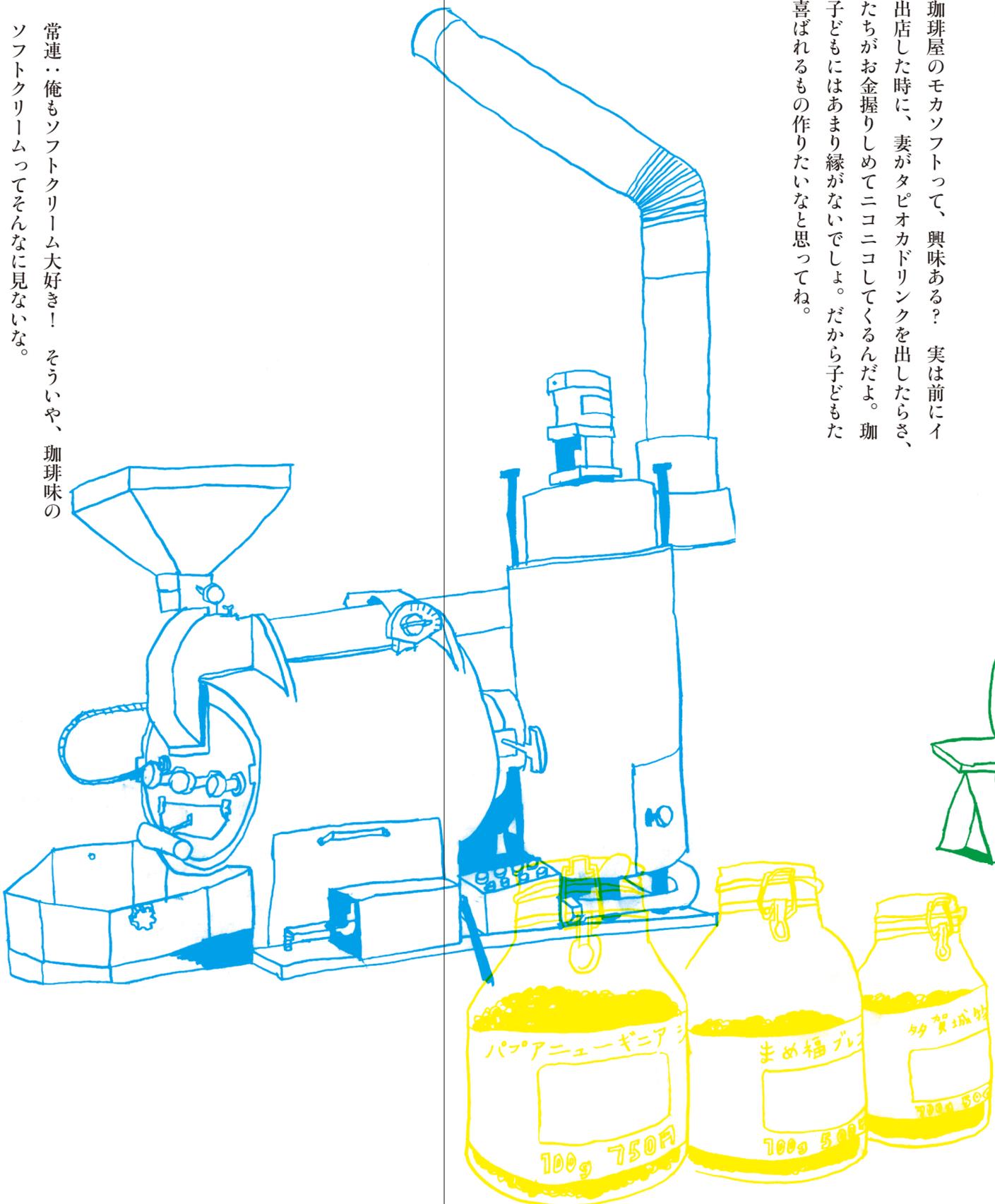
店主..後付けだけど、「小さな幸せをみなさんに」っていう意味も店名に込めてるよ。近々やっとな新しいロゴとか、パンフレットとかも完成予定で、本腰入れる覚悟も出てきてさ。仕事も副業できるファイナンシャルプランナーに転職して、自由に時間を使えるようになったから、やりたいことどんどんやっついこうと思って。

常連..おー！

店主..珈琲屋のモカソフトって、興味ある？ 実は前にイベント出店した時に、妻がタピオカドリンクを出したらさ、子どもたちがお金握りしめてニコニコしてくるんだよ。珈琲って子どもにはあまり縁がないでしょ。だから子どもたちにも喜ばれるもの作りたいたいと思ってね。



土田義徳/まめ福店主。2005年まめ福をオープンし、全国でも珍しい遠赤外線焙煎機を導入した。イベント出店や、商品開発、さらには商店街の会長までこなすオールラウンダー。



常連..俺もソフトクリーム大好き！ そーいや、珈琲味のソフトクリームってそんなに見ないな。

店主..モカソフトって、余るとその日のうちに材料を全部処分しなきゃならない。だから利益なんて出ないんだけど、多賀城の名物にもなった嬉しいよね。

常連..確かに多賀城って目立ったものないから知名度低いしね。

店主..だから多賀城物語っていうドリップバッグ作ったりしてるんだけどね。多賀城には美味しいお菓子がたくさんあるから、それと一緒に飲んだ時に相乗効果が生まれるようにブレンドしてる。

常連..俺もよくお土産に使わせてもらってるよ。お菓子と一緒に親戚に送ったりね。マスター、商店会の会長もしてるし、多賀城愛が深いよね。そもそもお客来るから店続けようって、普通の人は考えないよ。

店主..楽天的だからね。なんとなかなるだろうって。ありがたいことに人生の節目節目で大変な時に助けてくれる人が現れたり、ラッキーなことが舞い込んでくる。お客さんとの出会いも俺にとっては幸せなことだったし。

常連..いやー俺だっていつも美味しい珈琲飲ませてもらって、良い時間をもらってるよ！